

研究成果報告書

(国立情報学研究所の民間助成研究成果概要データベース・登録原稿)

研究テーマ (和文)	更新世-完新世の環境激変期における人類適応史の解明		
研究テーマ (英文)	A study of human adaptation to the drastic change during Pleistocene-Holocene transition.		
研究期間	2019年11月～ 2021年11月	研究機関名 沖縄県立博物館・美術館	
研究代表者	氏名	(漢字)	山崎 真治
		(カタカナ)	ヤマサキ シンジ
		(英文)	Shinji Yamasaki
	所属機関・職名	沖縄県立博物館・美術館 主任学芸員	
共同研究者 (1名をこえる場合は、別紙追加用紙へ)	氏名	(漢字)	澤浦 亮平
		(カタカナ)	サワウラ リョウヘイ
		(英文)	Ryohei Sawaura
	所属機関・職名	沖縄県立博物館・美術館 学芸員	

概要 (600字～800字程度にまとめてください。)

産業革命以降現代に至る約250年間、人類は地球環境を大きく変貌させてきた。一方人類は、更新世末から完新世初頭にかけて、現代よりも激しい気候や環境の変化を経験してきた。本研究では、小規模島嶼でありながら、更新世-完新世を通じて人類居住が継続したと考えられる、沖縄の洞窟遺跡から得られた高解像度な遺跡情報にもとづいて、人類がいかに激変する環境に適応し、文化や社会を進化させてきたかという問題の解明を目指した。

基礎データの収集を目的として、2021年度にはサキタリ洞遺跡(沖縄県南城市)の発掘調査を実施し、中甫洞穴(沖永良部島)、多良間島の砂丘遺跡において放射性炭素年代測定を含む理化学分析を実施した。さらに、出土品の分析を通して生業動態復元や古人口推定を行い、更新世(旧石器時代)には中大型獣類だけでなく、小動物まで含めた多角的な資源利用が行われていたのに対して、完新世前葉には獣類資源(イノシシ)利用への特化、集中化が認められること、完新世後葉以降、魚介類などの海産資源の利用が活発化することが示された。また更新世(旧石器時代)の沖縄では移動性の高い生活様式が推定されているのに対して、完新世前葉には徳之島、沖永良部島、沖縄島、石垣島等において土器文化が定着し、遺跡数や遺跡規模も増大することから、より定住的な生活様式が広がるとともに人口も増加したことが推定された。以上のように、更新世-完新世の沖縄の人々は、生活様式や資源利用形態を柔軟に変化させることによって、気候変動に対応していたと考えられる。

成果の一部は沖縄県立博物館・美術館にて開催された企画展「海とジュゴンと貝塚人」(会期:2021年10月15日～12月5日)の中でも紹介した。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、期間や計画の変更を與儀なくされた部分もあったが、おおむね当初計画通り研究を進めることができ、研究成果を複数の雑誌に発表することができた。

発表文献（この研究を発表した雑誌・図書について記入してください。）						
雑誌	論文課題	「サキタリ洞遺跡の貝製ビーズと顔料利用に関する新たな知見－沖縄の旧石器文化をめぐる特殊性と普遍性－」				
	著者名	山崎真治・澤浦亮平・黒住耐二・藤田祐樹・竹原弘展・海部陽介	雑誌名	旧石器研究		
	ページ	57～77	発行年	2 0 2 1	巻号	1 7
雑誌	論文課題	知名町中甫洞穴出土海産貝類の放射性炭素年代				
	著者名	山崎真治・黒住耐二・宮城幸也	雑誌名	奄美考古学		
	ページ	61～70	発行年	2 0 2 1	巻号	9
雑誌	論文課題	旧石器人と海－ 辺縁からの視点－				
	著者名	山崎真治	雑誌名	九州旧石器		
	ページ	223～246	発行年	2 0 2 0	巻号	2 4
図書	書名					
	著者名					
	出版社		発行年		総ページ	
図書	書名					
	著者名					
	出版社		発行年		総ページ	

英文抄録 (100 語～200 語程度にまとめてください。)

Since the Industrial Revolution of 250 years ago, our human beings have greatly changed the global environment. On the other hand, we have experienced more severe climatic and environmental changes between the end of the Pleistocene to the beginning of the Holocene than today.

Our target area, Okinawa is the small islands of the western Pacific region, but humans arrived there at the terminal Pleistocene and survived over 35,000 years. In this study, based on high-resolution archaeological information obtained from karstic cave sites in Okinawa, we aimed to elucidate the question of how we have adapted to the drastically fluctuating environment and have developed culture and society in the small islands.

Chronological changes of the exploitation strategy and demography were estimated from the archaeological records. Although palaeolithic people was estimated to be nomadic and used various resources including hoofed animals and small animals, the importance of wild boar was remarkably increased in the early Holocene. Population size and stability of residential base were also seemed to be increased.

People changed their life style and strategy flexibly and adapted to the drastic climate change at the Pleistocene-Holocene transition on the small islands of the Pacific.

研究代表者名 山崎 真治

共同研究者	氏名	(漢字)	藤田 祐樹	
		(カタカナ)	フジタ マサキ	
		(英文)	Masaki Fujita	
	所属機関・職名		国立科学博物館 研究主幹	
	氏名	(漢字)	國木田 大	
		(カタカナ)	クニキタ ダイ	
		(英文)	Kunikita dai	
	所属機関・職名		北海道大学文学研究院 准教授	
	氏名	(漢字)		
		(カタカナ)		
		(英文)		
	所属機関・職名			
	氏名	(漢字)		
		(カタカナ)		
(英文)				
所属機関・職名				
氏名	(漢字)			
	(カタカナ)			

	(英文)	
所属機関・職名		
氏名	(漢字)	
	(カタカナ)	
	(英文)	
所属機関・職名		
氏名	(漢字)	
	(カタカナ)	
	(英文)	
所属機関・職名		
氏名	(漢字)	
	(カタカナ)	
	(英文)	
所属機関・職名		